

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4年 3月 2日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3493600039		
法人名	特定非営利活動法人 匠の家		
事業所名	ケアホーム匠		
所在地	広島県安芸高田市吉田町常友486番地 (電話) 0826-47-1013		
自己評価作成日	令和4年2月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3493600039-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3493600039-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年2月28日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

コロナ禍のため、利用者と家族が思うように会えず不安な状況が続いているため、担当職員がご家族へ電話や動画、写真で利用者の様子を細かく報告するようにしている。行事も中止にするのではなく、規模を小さくし、楽しみな時間を作れるよう職員がアイデアを出し合い、行事食を楽しんでもらった。また、利用者個々に合ったリハビリメニューをPTさんに立ててもらい週に2~3回行い、筋力低下を防ぐよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所の理念は、開設以来基本的には変わらず、法人代表は常に利用者第一に考え、日頃の支援をバックアップしている。市町や地域との関係は、日頃からの付き合いを始め、運営推進会議で多職種の関係者が意見交換（書面会議にて）を行い、毎回家族に会議録を送付し、情報を共有している。災害時訓練においても有事を想定し、利用者と共に定期的に行っている。医療面では協力医（地元の総合病院）のもと、看護師と介護職員が協力し、重度化した場合も利用者へ寄り添った看取りを多数行う等、家族の信頼と安心に繋がるよう取り組んでいる。日常のサービスにおいて管理者と職員は、ビジネスチャットツールを活用しながら情報を共有し、利用者への素早い支援がされている。また職員は管理者に対して、日頃から忌憚なく意見が言える環境を構築している。

自己評価	外部評価	項目( さくら )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所玄関正面や事務所に理念を掲げ朝礼で唱和する事で、職員の意識も高まり、来所された方には気持ちの良い挨拶を心がけている。	開設からの理念及び運営方針の意味合いを共有し、笑顔や思いやりを大切に、職員はコロナ禍において、2グループに分けたグループホーム会議に参加している。また、外部研修、動画視聴等で個々に研修を行い、実践に繋げるよう努力している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の一斉掃除に努めて参加している。自治会の回覧板も回してもらい、事業所行事の際には、地域に声掛けするように努めている。今年もコロナの関係で行事にお誘いすることはできなかったが講中の方に八朔を配ったり、近所の方に野菜を頂いている。	事業所は町内会に加入し、職員は地域の一斉掃除に参加し、途切れないつきあいを大切にしている。コロナ禍においてはイベント等に、参加することが困難で、ボランティアも中止しており、職員は地域の様子を見聞きしてきた事を、利用者に伝え地域交流の支援に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	昨年、見学に来ていただく予定だったがコロナ禍のため、チーフが吉田高校の福祉専攻生徒にグループホームとはどういうところか、匠の紹介に伺った。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度の運営推進会議は緊急事態宣言やまん延防止の期間には中止し、それ以外は開催した。中止させていただいたときには委員の皆様へ資料を郵送し意見があれば返信していただいている。	書面会議の形式が多く、多職種の関係者や家族に事前に意見(面会時等)をもらいながら、より良いサービスの向上に活かす取り組みがある。温暖な日には密を避け、事業所のテラスで会議を試みた事もある。議事録は毎回家族や関係者に送付し、更なる意見交換に繋げている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	行政担当者とは頻繁に相談させていただき運営推進会議には毎回出席いただいている。事務手続きの際には、窓口へ行きコミュニケーションをとるよう心がけている。また災害の時には市から安否確認をこまめにいただいている。	市町へは、運営推進会議の議事録を提出して繋がるよう努力している。担当者により良い普段の対応について、相談する等協力関係を築く取り組みがされている。	

自己評価	外部評価	項目( さくら )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	転倒を何度も繰り返され方がおられ、畳部屋を作り自由にうごいてもらうようにしたところ本人さんの不安、暴力が激減した。職員には拘束について禁止だということを会議で何度も認識させることでどうすれば転倒防止できるかをしっかり意見できるようになってきた。	身体拘束しないケアは、研修や会議で把握している。例えば転倒し易い利用者の行動を把握し、居室を畳に変更し行き来出来る様取り組んだ結果、自由と安全のバランスを考慮し、良い方向に支援が出来た。職員は常に話し合いを行い、拘束しない支援に努めている。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部、内部研修が難しいためリモート研修（YouTubeより）として不適切なケアについて各自鑑賞し、感想を提出するという研修を行った。またアザや傷を発見した場合は気をつけましょうで済ませず検証する努力をしている。	/	
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	主に管理者やチーフを通して、成年後見制度等必要と思われる利用者に関しては、早めに話をするように心がけている。	/	
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時には十分な説明を行い、理解・納得された上で契約していただいている。改定等の際には、その都度文書と口頭にて説明している。	/	
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時等に意見や相談をうけることが多かったがコロナのため面会も少ない。そのため、家族とLINEを繋ぎ意見や要望をいただいている。運営推進会議でも意見・要望は聞いている。	来所時等に意見を求める機会は設けている。事業所は、運営推進会議や定期的な手紙（写真を含む）や身近な出来事を知らせている。例えば家族から職員の顔と名前が一致し難い等の要望を受け、検討し壁に名前入り写真を掲載する等、家族の意見を反映させるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目( さくら )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月1回の職員会議やグループホーム会議では、皆が平等に意見が言えるよう1人ずつ発言してもらうようにしている。また、質問や意見が言いやすい雰囲気作りは心がけている。</p>	<p>職員からの意見や要望が有れば話し合い、必要に応じて解決している。例えば利用者のユニット変え(家族の了解のもと)をしたことで、穏やかに過ごせるようになった。事業所は更なる意見の反映に取り組んでいる。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>子育て世代の職員が多いため、勤務時間や夜勤の曜日等の融通をしたり、急な休みには職員同士協力し合っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>新人には教育係をつけ、マンツーマンでOJTによる指導し、終業後には振り返りを行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>コロナ禍のため直接の交流は難しいが、同業者の知人、友人とSNS等で交流を図っている。情報を知り得る事で知らないことを学び質の向上を目指している。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>新規の方にはしっかり話しかけることを心がけそこから知り得た情報をラインワークスで共有している。ご家族からも生活歴を聞きとりし安心していただけるケアプランを立てている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( さくら )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>サービス開始時には勿論ご家族の要望等お聞きするが、最初から全ては聞けないし話されないので、面会時や電話等でお話することで徐々に信頼関係を築いていくようにしている。家族とLINEを繋げることで動画や写真を送り安心していただけるよう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>申し込みや見学に来られた際にご家族の不安をしっかりと聞きし、すぐの入所が難しい場合や通いが可能な場合は小規模多機能の説明も行っている。利用開始時のご本人やご家族の要望に対し当面の暫定ケアプランを立て、状況を見ながらプランの変更をおこなう。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>利用者の出来る事、出来ないことを決めつけずまずは挑戦してみても見極め、ケアプランに組み込むことで、職員が同じ対応できるようにしている。また、匠は施設感をなるべくなくすため制服は作らず、家庭的な雰囲気大切にしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>お薬の処方等は極力お願いし、受診対応させていただいた際にはこまめに報告している。新たにプランを立て直す時には希望を聞いたり、面会時は職員も一緒に話をしたりして、できるだけご家族も巻き込んで共に利用者支援している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>利用者との会話の中で「家が心配」「墓参りに行っていない」などの話があった時にはドライブに行ったりお墓参りに同行したりしている。</p>	<p>出掛ける事が困難な現状で、関係継続の支援を大切にしている。例えば利用者個々の希望や状態によって、芋ほりやミカン狩りに出掛けたり、自宅の周りをドライブしたり、また馴染みの本を購入したり、その人に合った途切れない支援に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目( さくら )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	作業する際、利用者同士の助け合いが出来るよう席を配慮したり、話が弾むように職員が間に入っている。折り合いが悪く同じユニットで生活するのが困難と察した場合はユニットの変更をしたこともある。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後の利用者のご家族に運営推進会議の委員として残って頂き助言を頂いている。また、転院された利用者家族ともLINEで状況をやりとりしている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望を聞くことが困難な場合はご家族から意見をいただいたり、誕生日には担当が喜んでいただけることを計画している。	本人や家族から希望を聞き取り、例えば、食事量が減った利用者が、食事形態や好きなものを優先することで、進んで食べる事が出来る様になった。職員は本人本位の支援が出来る様、ビジネスコミュニケーションツールを活用しながら情報を共有し、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時やご家族からの聞き取り、本人さんとの会話の中から情報収集している。それをケアプランにも反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎朝バイタルチェックを行い、利用者が戸惑われる事のないようケアプランに沿って統一したケアをしている。1人ひとりの体力等考慮しPTさんにリハビリメニューを作成していただき週2～3回運動出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目( さくら )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>毎月のグループホーム会議で、個々のカンファレンスをおこない、ケース担当を中心に3か月に1度プランのモニタリング見直しをしている。またご家族からの要望や意見も聞くようにしている。コロナで会議ができない月には皆から意見を集め担当が中心にまとめる。</p>	<p>モニタリングは3ヶ月毎に本人、家族の意見が核となり、必要な関係者(管理者、ケアマネジャー、理学療法士、担当者等)が現状に即した計画を作成している。又、カンファレンスを行い、状態の変化がある場合は、評価、見直しを行い介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の記録の中に、介護計画に関するチェック欄がある。合わせてモニタリングも行えるようになっており、次の計画につなげている。 新しい情報や注意点等については、LINEワークス等で速やかに共有ができるようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>家族との話し合いを大切にし、その時々状況などには臨機応変に対応できるようにしている。コロナ禍で面会中止となっているが看取り時の家族の面会等は人数制限をし、健康チェックシートの記入のお願いのもと直接面会をしてもらった。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>コロナ禍で現在は難しいが、ボランティアの受け入れや法話会等を行っていた。1度リモート法話会を行ったが利用者には難しかったのか反応が薄かった。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>ご家族にも協力いただきながら、できるかぎり入居前のかかりつけ医に受診している。 現在終末期に近い利用者や、胃瘻造設で月1回在宅療養管理指導を受けておられる方には定期的に往診していただいている。</p>	<p>かかりつけ(協力)医は近隣の総合病院の他、希望でそれぞれの医療機関に、家族または職員が同行し受診している。歯科受診においても同じで、入院や他科受診も連携をとりながら行っている。看護師はオンコールで対応し、薬剤師も必要に応じて来所し支援体制が確保されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目( さくら )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問看護とは情報の共有に努め、利用者に何かあればすぐに電話連絡が取れる体制となっている。昨年末胃瘻造設された利用者には、小規模看護師やパート看護師が対応し、補えない時には喀痰吸引資格者が対応している。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍で面会はできないが、家族や地域連携室と情報を共有し、認知症が進行しないためにも早期退院を受け入れている。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時の重要事項の説明の中で重度化に向けた方針等の説明も合わせて行っている。看取りを迎える場合には早めに家族とのカンファレンスを行い、意思の確認と今後の方針等を確認している。それにより主治医を往診可能な医師に変更していただくこともある。	管理者及び職員は看取りの経験があり、利用開始時には家族等に説明が行われ、方針を共有しながら支援する体制を確保している。重度化した場合は、家族の気持ちに寄り添い、チームで安心したケアに取り組んでいる。家族からは職員に感謝の言葉が有り励みになっている。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	なかなか急変等の対応の訓練はできていないが、いつもと違うという感覚は大事にするよう指導している。看護師や先輩職員が対応しているのを見て学び、不安なことや対応方法については会議で共有している。チーフ、看護師は連絡を受け適切な指示を出せるよう日頃の様子も把握している。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防訓練は年数回行っている。訓練時には新人職員が対応できるようにして、誰もが1度は経験するようにしている。水害時を想定して2階への避難方法も実践した。地域の協力体制については消防団の方にお話に行く予定であったが進められていない。	事業所は地理的環境を把握し、常に早めの避難を心掛けている。年2回の消防訓練は夜間想定を含め、利用者と共にやっている。更には水害時も想定し実践さながらの訓練も行われている。備蓄もされており、今後も更に地域との協力体制を築く取り組みがある。	



自己評価	外部評価	項目( さくら )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	信頼関係ができると、親しみを込めてその方の話やすい声かけをすることもありますが、自尊心を傷つけないように注意している。トイレ誘導の声かけ、パットの持ち歩きについて職員間でも話し合った。	利用者の人格を尊重するため、その人の生活歴を知る事で、日々の支援に役立てている。職員は会議を通じて、冷たい態度の対応にならない様に気を配り、利用者一人ひとりの、プライバシーや人格の尊重を、再確認しサービスに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	なるべく希望に添うように心がけてはいる。思うことを話せない方には、自己決定できるような対応やケアを心がけている。 例) 入浴時の着替え等どちらがいいですかと、本人に選択してもらう。朝食時、パンかご飯か選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ケア内容や日々の生活の中での流れには合わせてもらっているが、拒否や体調がすぐれない時には、日をずらしたり、時間を変えたりして対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	コロナ禍で美容院にいけなくなったので得意な職員が散髪し喜んでもらった。いままで白髪染めをこまめにされていた方は職員が入浴前にさせていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員も一緒に食事をしていて最近ではコロナ禍で別々に食べるよう対策している。手作りの日には食事係が畑でできた野菜を使うメニューを考え、おかず分けや配膳、下膳できる方にはしてもらい、介助で食べられる方にはしっかり声かけをしながら楽しく食べてもらえるようにしている。	食事は食材の配食を利用している。週1度の昼食は職員が手作りしている。誕生日には利用者一人ひとりのリクエストに応えられるよう工夫している。食事環境については、イスの高さ等調整し、行事食の恵方巻、丑の日のウナギ、正月の雑煮等、楽しい食事が出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目( さくら )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>毎日の摂取量をチェックし、変化を共有するようにしている。合わせて本人が摂取しやすい形態（ゼリー食、ミキサー食）を提供し食欲が低下されている方には、食事時間にこだわらず状態が良いときに食べてもらったり、お小遣いから食べやすい物を購入している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>歯科医に助言をもらいながら、個々に合わせた口腔ケアを毎食後行っている。自分でできる方のほうが見落としがちになるので気をつけたい。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>全介助の方でも一日に一回はトイレに座って頂くようなプランを立て実施したり、失敗やパット等の使用を減らすように本人にあった誘導時間に行っている。</p>	<p>トイレは各部屋にあり、昼夜ともプライバシーが守られている。夜間は利用しやすく、今はポータブルトイレの利用者はいない。ケアにおいては常に尿路感染予防を心掛け、排便も自然の通じが出来る様、食事に気を配り薬に頼らない支援を実践している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>毎日10時にヨーグルトや牛乳を提供し、自然排便を促している。合わせて排泄チェック表により排便のチェックをおこない必要ならば下剤を使用したりサイクル等のリハビリでしっかり動いてもらい、便秘にならないように気をつけている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>週に2、3回は入れるようにしている。好きなタイミングに合わせるの難しいことが多いが、午前が良いか午後が良いかは希望を聞くようにしている。拒否が強いときは後日にしたり、清拭のみに変更し対応している。</p>	<p>利用者の希望に合わせ、一人ひとり快適な入浴を心掛けている。またローションや皮膚の薬を利用する事もあり、ヒートショック対策にも気配りがある。</p>	

自己評価	外部評価	項 目( さくら )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の希望や状態により、休んでもらう時間は個人差がある。TVを見たい方にはゆっくりする時間をとったり、眠れない方は一緒に事務所で過ごしたりと、その方のペースに合わせて就寝していただいている。昼寝が必要な方は夜間不眠につながらないよう時間を見て休んでいただいている。		
47		○服薬支援  一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	誤薬や飲み忘れ等ない様に、服薬に関してはセットする人、チェックする人、与薬する人と3段階のチェック体制を取っている。日頃の利用者状態を主治医に伝え減薬にも努め、変更等あったときはLINEワークスで周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	役割があることでやりがいを持てる方にはプランに盛り込み支援している。利用者同士の助け合いも大切に、あまり職員が率先しないで見守るようにしている。月に1回担当職員を決め、合同でレクリエーションの日を作り気分転換できるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人の希望があれば可能な限り、散歩や買い物に出かけているが、コロナ禍のため外出が難しく、おやつや必要品は職員が買ってきてお渡ししている。	外出が困難な現在、職員は外の空気を感じて貰うため、天気の良い日は裏の畑で、草抜きをする利用者もいる。また散歩を兼ねて近くのゴミステーションに行き、近隣住民と挨拶を交わしている。職員は安心、安全な外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在ご自分で管理されている方はおられない。自分のお金があるか聞かれたときにはご家族から預かり金庫で保管していることを伝え、何か欲しい物があるのかお聞きするようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目( さくら )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>希望あるときは対応している。現在お手紙を書かれる方が1人いらっしゃるの で職員が切手を貼り出している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>掃除が行き届いていないところがあると感じている。各居室はその方に合ったベットの配置やなじみの物を置いたりしている。 花壇で咲いた花を利用者が切って、飾って下さっている。状況に応じてホールの模様替えも行っている。</p>	<p>毎朝、利用者は職員と共に掃除をしている。壁にはみんなで作った、手作りのひな人形が飾られている。リビング横のベンチで新聞を読んだり、時には2～3人で会話をする利用者もいる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>自室で新聞を読んだり、ソファでくつろいだり、思い思いに過ごしておられる。デイサービスを利用されていた方で落ち着きがないと言われていた方も自室が出来たことで落ち着かれたケースもあった。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>なじみの空間作りで、使い慣れた物を持参頂くようお願いするが、新品を持ってこられる方が多いような気がする。長い時間を自室で過ごされる方は、その方の好みで色々と工夫されている。</p>	<p>居室入口には表札と目印の飾りがある。室内は洗面台付トイレとエアコン、ベット、クローゼットが設置され、家具は使い慣れたものを持参している。利用者の中には畳を敷いたり、また人形を飾り自分の部屋らしくしている。職員は心地よく過ごせるよう配慮している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>廊下等にはできるだけ物を置かずに、歩きやすい環境としている。各居室は本人の状態に合わせて家具の配置を決めている。</p>		

V アウトカム項目( さくら ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目( あやめ )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所玄関正面や事務所に理念を掲げ朝礼で唱和する事で、職員の意識も高まり、来所された方には気持ちの良い挨拶を心がけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の一斉掃除に努めて参加している。自治会の回覧板も回してもらい、事業所行事の際には、地域に声掛けするように努めている。今年もコロナの関係で行事にお誘いすることはできなかったが講中の方に八朔を配ったり、近所の方に野菜を頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	昨年、見学に来ていただく予定だったがコロナ禍のため、チーフが吉田高校の福祉専攻生徒にグループホームとはどういうところか、匠の紹介に伺った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度の運営推進会議は緊急事態宣言やまん延防止の期間には中止し、それ以外は開催した。中止させていただいたときには委員の皆様へ資料を郵送し意見があれば返信していただいている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	行政担当者とは頻繁に相談させていただき運営推進会議には毎回出席いただいている。事務手続きの際には、窓口へ行きコミュニケーションをとるよう心がけている。また災害の時には市から安否確認をこまめにいただいている。		

自己評価	外部評価	項目( あやめ )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	転倒を何度も繰り返され方がおられ、畳部屋を作り自由にうごいてもらうようにしたところ本人さんの不安、暴力が激減した。職員には拘束について禁止だということを会議で何度も認識させることでどうすれば転倒防止できるかをしっかり意見できるようになってきた。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部、内部研修が難しいためリモート研修（YouTubeより）として不適切なケアについて各自鑑賞し、感想を提出するという研修を行った。またアザや傷を発見した場合は気をつけましょうで済ませず検証する努力をしている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	主に管理者やチーフを通して、成年後見制度等必要と思われる利用者に関しては、早めに話をするように心がけている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時には十分な説明を行い、理解・納得された上で契約していただいている。改定等の際には、その都度文書と口頭にて説明している。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時等に意見や相談をうけることが多かったがコロナのため面会も少ない。そのため、家族とLINEを繋ぎ意見や要望をいただいている。運営推進会議でも意見・要望は聞いている。		



自己評価	外部評価	項目( あやめ )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の職員会議やグループホーム会議では、皆が平等に意見が言えるよう1人ずつ発言してもらうようにしている。また、質問や意見が言いやすい雰囲気作りは心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	子育て世代の職員が多いため、勤務時間や夜勤の曜日等の融通をしたり、急な休みには職員同士協力し合っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人には教育係をつけ、マンツーマンでOJTによる指導し、終業後には振り返りを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍のため直接の交流は難しいが、同業者の知人、友人とSNS等で交流を図っている。情報を知り得る事で知らないことを学び質の向上を目指している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	新規の方にはしっかり話しかけることを心がけそこから知り得た情報をラインワークスで共有している。ご家族からも生活歴を聞きとりし安心していただけるケアプランを立てている。		

自己評価	外部評価	項目(あやめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始時には勿論ご家族の要望等お聞きするが、最初から全ては聞けないし話されないので、面会時や電話等でお話することで徐々に信頼関係を築いていくようにしている。家族とLINEを繋げることで動画や写真を送り安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	申し込みや見学に来られた際にご家族の不安をしっかりお聞きし、すぐの入所が難しい場合や通いが可能な場合は小規模多機能の説明も行っている。利用開始時のご本人やご家族の要望に対し当面の暫定ケアプランを立て、状況を見ながらプランの変更をおこなう。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者の出来る事、出来ないことを決めつけずまずは挑戦してみても見極め、ケアプランに組み込むことで、職員が同じ対応できるようにしている。また、匠は施設感をなるべくなくすため制服は作らず、家庭的な雰囲気大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	お薬の処方等は極力お願いし、受診対応させていただいた際にはこまめに報告している。新たにプランを立て直す時には希望を聞いたり、面会時は職員も一緒に話をしたりして、できるだけご家族も巻き込んで共に利用者を支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者との会話の中で「家が心配」「墓参りに行ってない」などの話があった時にはドライブに行ったりお墓参りに同行したりしている。		

自己評価	外部評価	項目( あやめ )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	作業する際、利用者同士の助け合いが出来るよう席を配慮したり、話が弾むように職員が間に入っている。折り合いが悪く同じユニットで生活するのが困難と察した場合はユニットの変更をしたこともある。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後の利用者のご家族に運営推進会議の委員として残って頂き助言を頂いている。また、転院された利用者家族ともLINEで状況をやりとりしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望を聞くことが困難な場合はご家族から意見をいただいたり、誕生日には担当が喜んでいただけることを計画している。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時やご家族からの聞き取り、本人さんとの会話の中から情報収集している。それをケアプランにも反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎朝バイタルチェックを行い、利用者が戸惑われる事のないようケアプランに沿って統一したケアをしている。1人ひとりの体力等考慮しPTさんにリハビリメニューを作成していただき週2～3回運動出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目( あやめ )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>毎月のグループホーム会議で、個々のカンファレンスをおこない、ケース担当を中心に3か月に1度プランのモニタリング見直しをしている。またご家族からの要望や意見も聞くようにしている。コロナで会議ができない月には皆から意見を集め担当が中心にまとめる。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の記録の中に、介護計画に関するチェック欄がある。合わせてモニタリングも行えるようになっており、次の計画につなげている。 新しい情報や注意点等については、LINEワークス等で速やかに共有ができるようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>家族との話し合いを大切にし、その時々状況などには臨機応変に対応できるようにしている。コロナ禍で面会中止となっているが看取り時の家族の面会等は人数制限をし、健康チェックシートの記入のお願いのもと直接面会をしてもらった。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>コロナ禍で現在は難しいが、ボランティアの受け入れや法話会等を行っていた。1度リモート法話会を行ったが利用者には難しかったのか反応が薄かった。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>ご家族にも協力いただきながら、できるかぎり入居前のかかりつけ医に受診している。 現在終末期に近い利用者や、胃瘻造設で月1回居宅療養管理指導を受けておられる方には定期的に往診していただいている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( あやめ )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問看護とは情報の共有に努め、利用者には何かあればすぐに電話連絡が取れる体制となっている。昨年未胃瘻造設された利用者には、小規模看護師やパート看護師が対応し、補えない時には喀痰吸引資格者が対応している。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍で面会はできないが、家族や地域連携室と情報を共有し、認知症が進行しないためにも早期退院を受け入れている。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時の重要事項の説明の中で重度化に向けた方針等の説明も合わせて行っている。看取りを迎える場合には早めに家族とのカンファレンスを行い、意思の確認と今後の方針等を確認している。それにより主治医を往診可能な医師に変更していただくこともある。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	なかなか急変等の対応の訓練はできていないが、いつもと違うという感覚は大事にするよう指導している。看護師や先輩職員が対応しているのを見て学び、不安なことや対応方法については会議で共有している。チーフ、看護師は連絡を受け適切な指示を出せるよう日頃の様子も把握している。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防訓練は年数回行っている。訓練時には新人職員が対応できるようにして、誰もが1度は経験するようにしている。水害時を想定して2階への避難方法も実践した。地域の協力体制については消防団の方にお話に行く予定であったが進められていない。		

自己評価	外部評価	項目( あやめ )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	信頼関係ができると、親しみを込めてその方の話やすい声かけをすることもあるが、自尊心を傷つけないように注意している。トイレ誘導の声かけ、パットの持ち歩きについて職員間でも話し合った。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	なるべく希望に添うように心がけてはいる。思うことを話せない方には、自己決定できるような対応やケアを心がけている。 例) 入浴時の着替え等どちらがいいですかと、本人に選択してもらう。朝食時、パンかご飯か選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ケア内容や日々の生活の中での流れには合わせてもらっているが、拒否や体調がすぐれない時には、日をずらしたり、時間を変えたりして対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	コロナ禍で美容院にいけなくなったので得意な職員が散髪し喜んでもらった。いままで白髪染めをこまめにされていた方は職員が入浴前にさせていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員も一緒に食事をしていたが最近ではコロナ禍で別々に食べるよう対策している。手作りの日には食事係が畑でできた野菜を使うメニューを考え、おかず分けや配膳、下膳できる方にはしてもらい、介助で食べられる方にはしっかり声かけをしながら楽しく食べてもらえるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目( あやめ )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>毎日の摂取量をチェックし、変化を共有するようにしている。合わせて本人が摂取しやすい形態(ゼリー食、ミキサー食)のを提供し食欲が低下されている方には、食事時間にこだわらず状態が良いときに食べてもらったり、お小遣いから食べやすい物を購入している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>歯科医に助言をもらいながら、個々に合わせた口腔ケアを毎食後行っている。自分でできる方のほうが見落としがちになるので気をつけたい。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>全介助の方でも一日に一回はトイレに座って頂くようなプランを立て実施したり、失敗やパット等の使用を減らすように本人にあった誘導時間に行っている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>毎日10時にヨーグルトや牛乳を提供し、自然排便を促している。合わせて排泄チェック表により排便のチェックをおこない必要ならば下剤を使用したりサイクル等のリハビリでしっかり動いてもらい、便秘にならないように気をつけている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>週に2.3回は入れるようにしている。好きなタイミングに合わせるの難しいことが多いが、午前が良いか午後が良いかは希望を聞くようにしている。拒否が強いときは後日にしたり、清拭のみに変更し対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目( あやめ )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の希望や状態により、休んでもらう時間は個人差がある。TVを見たい方にはゆっくりする時間をとったり、眠れない方は一緒に事務所で過ごしたりと、その方のペースに合わせて就寝していただいている。昼寝が必要な方は夜間不眠につながらないように時間をみて休んでいただいている。		
47		○服薬支援  一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	誤薬や飲み忘れ等ない様に、服薬に関してはセットする人、チェックする人、与薬する人と3段階のチェック体制を取っている。日頃の利用者状態を主治医に伝え減薬にも努め、変更等あったときはLINEワークスで周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	役割があることでやりがいを持てる方にはプランに盛り込み支援している。利用者同士の助け合いも大切に、あまり職員が率先しないで見守るようにしている。月に1回担当職員を決め、合同でレクリエーションの日を作り気分転換できるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人の希望があれば可能な限り、散歩や買い物に出かけているが、コロナ禍のため外出が難しく、おやつや必要品は職員が買ってきてお渡ししている。		
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在ご自分で管理されている方はおられない。自分のお金があるか聞かれたときにはご家族から預かり金庫で保管していることを伝え、何か欲しい物があるのかお聞きするようにしている。		



自己評価	外部評価	項目( あやめ )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>希望あるときは対応している。現在お手紙を書かれる方が1人いらっしゃるので職員が切手を貼り出している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>掃除が行き届いていないところがあると感じている。各居室はその方に合ったベッドの配置やなじみの物を置いたりしている。</p> <p>花壇で咲いた花を利用者が切って、飾って下さっている。状況に応じてホールの模様替えも行っている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>自室で新聞を読んだり、ソファでくつろいだり、思い思いに過ごしておられる。デイサービスを利用されていた方で落ち着きがないと言われていた方も自室が出来たことで落ち着かれたケースもあった。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>なじみの空間作りで、使い慣れた物を持参頂くようお願いするが、新品を持ってこられる方が多いような気がする。長い時間を自室で過ごされる方は、その方の好みで色々と工夫されている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>廊下等にはできるだけ物を置かず、歩きやすい環境としている。各居室は本人の状態に合わせて家具の配置を決めている。</p>		

V アウトカム項目( あやめ ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 ケアホーム匠

作成日 令和4年3月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	施設内での消防、水害訓練は実施できているが、地元消防団の協力的体制が出来ていない。	災害対策に力を入れることで匠を身近に感じてもらおう。	消防団代表の方にお会いし施設内の構造や入所者数を知ってもらおう。	1年以内
2	49	コロナ禍で外出が確実に減ってきている。コロナ禍でも出来ることを考えたい。	外出する利用者が偏らないよう誰もが外出できる方法を考え、利用者の笑顔を増やす。	部署会議で職員の意見を聞き、意見の中から各担当者が利用者に向けた外出方法を考える。	1年以内
3	13	コロナ禍でリモートでの外部研修が多く、参加できる職員に限られている。ケアの質の向上のためにも研修に参加できるようにリモート慣れが必要。	ケアの質の向上のためにも誰もがリモート研修に参加できるようにする。	部署会議でzoomの説明をし内部研修や会議でも使用することで外部研修でも使用出来るようにする。	6ヶ月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。